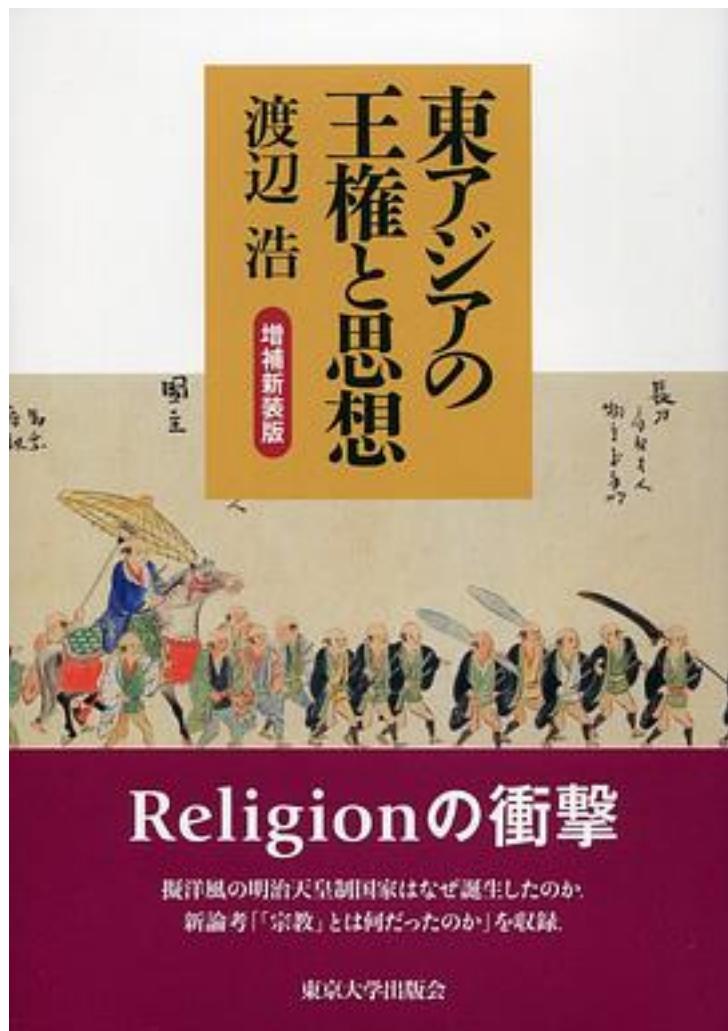


東アジアの王権と思想



[東アジアの王権と思想_下载链接1](#)

著者:渡辺浩

出版者:東京大学出版会

出版时间:2016-12-15

装帧:単行本

isbn:9784130301626

儀礼という「演劇装置」が徳川支配を正統化した。儒学が体制教化であった中国・朝

鮮との近似と相違を探りながら、近世から近代へと展開する政治体制の思想を剔抉する。「幕府」「天皇」など従来の日本史用語の思想性も衝き、斬新なパースペクティブを提示。新論考「「宗教」とは何だったのか」を収録。

作者介绍:

渡辺浩、1946年横浜市に生れる。1969年東京大学法学部卒業。東京大学教授を経て、2010年4月より法政大学教授(法学部)

目录: はしがき

序 いくつかの日本史用語について

I 政治体制の思想

1 「御威光」と象徴——徳川政治体制の一側面

2 制度・体制・政治思想

II 東アジア諸社会と思想

3 儒学史の異同の一解釈——「朱子学」以降の中国と日本

4 儒者・読書人・両班——儒学的「教養人」の存在形態

5 東アジアにおける儒学関連事項対照表——十九世紀前半

III 日本社会と国学的心性

6 「泰平」と「皇国」

7 「理」の美的嫌悪と暴力

IV 西洋の「近代」と東アジア

8 西洋の「近代」と儒学

9 「進歩」と「中華」——日本の場合

増補にあたって

補論 「宗教」とは何だったのか——明治前期の日本人にとって

・・・・・ (收起)

[東アジアの王権と思想_下载链接1](#)

标签

思想史

渡辺浩

日本

历史

评论

第一篇很有意思，可与阿甘本的Kingdom and Glory相对照（经济神学）。

[東アジアの王権と思想](#) [下载链接1](#)

书评

1952年，丸山真男把一系列論文結集，出版了《日本政治思想史研究》。這些論文起初都是發表於戰時，背後有着「超學問的動機」。戰時日本思想界充斥着「近代的超克」的迷思，認為日本要超越近代的西洋。與主流相比，丸山希望發掘日本自近代思維的萌芽，證明人民獨立自尊的合理性...

原文地址：[https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_1595478]

原文载于：《上海书评》（2017年1月）

渡边浩先生所提到的丸山真男先生（1914-1996），是战后日本思想史研究领域最负盛名的学者，也是中国文化界再熟悉不过的日本思想史家。他重要的著作《日本政治思想史研究...

[東アジアの王権と思想](#) [下载链接1](#)